

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻

薬剤疫学・臨床研究管理学

臨床疫学研究を推進し、薬剤疫学も標榜する国立大学で唯一の講座である当教室（川上浩司教授）では、レセプト、DPC、電子カルテ、調剤等の大規模医療データベース、母子保健や学校健診等の健診情報データベースといった豊富な基盤をもとに、臨床疫学や薬剤疫学の研究手法を活用することで、エビデンスに基づく医療の基盤となる研究を力強く実施しています。医療現場や公衆衛生上のリサーチクエストをもとに医薬品や医療技術の有効性や安全性に関するアウトカムリサーチ、本邦における診療実態や医療の適切性評価、母子保健および学校健診情報を用いた疫学研究および政策科学研究など幅広い領域をカバーしています。今後、社会で、医療、産業、政策等を担うための新医学を志す大学院生や若手研究者をお待ちしております。

様々な臨床系教室、病院、企業、自治体と連携したネットワーク（2018年4月教室集合写真）



指導教員陣容：教授（医師）、准教授2名（臨床疫学、小児科、生化学）
助教5名（薬剤疫学、公衆衛生学、保健医療行政、循環器内科、政策科学）

これまでの所属教室員のバックグラウンド：小児科、循環器内科、呼吸器内科、

糖尿病内科、消化器内科、腎臓内科、腫瘍内科、消化器外科、麻酔科、耳鼻咽喉科、

眼科、救急診療、歯科、薬剤師、看護師、製薬企業（出向ふくむ）、新卒等

教室出身者のキャリアパス：教授4名（札幌医科大学、名古屋大学、京都大学、慶應義塾大学）

准教授2名（滋賀医科大学、同志社大学）、国立循環器病研究センター、PMDA、製薬企業等

使用している医療系データベースと構築している情報

電子カルテDB（1800万人）、診療報酬請求レセプト情報（560万人）、DPC（1700万人）

調剤薬局情報統合（大手5社3500万処方箋相当）、母子保健情報（4万5000人）

学校健診情報（112自治体14万人）、介護入所時情報等

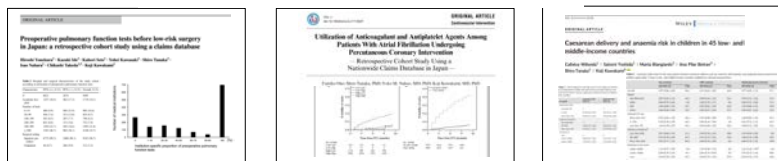
全国の自治体および医療機関と連携した大規模データベース構築



母子、学校、介護のデータは医療の前後データとなるので、レセプト情報などの既存の医療系データとリンクして解析することでそれぞれ**予防医療**や**医療全体で行われたことの評価**に役立ちます。

英国BMJ誌に論文掲載され、新聞各誌やTVニュースにて紹介されました。

川上研で実施された研究成果の例



2018年度研究成果（抜粋）

麻酔・集中治療領域の臨床疫学研究

1. 心肺停止蘇生後の低体温療法中における経腸栄養の有効性 (Resuscitation)
2. 大腿骨頸部骨折の術前心臓工コー検査と院内死亡 (Anesth Analg)
3. 食道切除術中のシベラスタット投与と院内死亡 (J Anesth)
4. 非心臓手術における動脈圧波形モニタリングの診療実態 (J Anesth)
5. 心筋梗塞患者のICU入院と院内死亡 (J Cardiol)

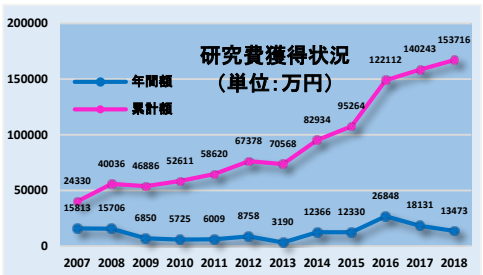
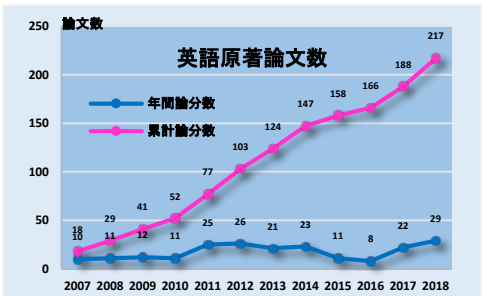
その他の臨床疫学・薬剤疫学研究

1. 高齢者における不適切処方と予定外入院 (Drug Safety)
2. セツキシマブ承認前後における頭頸部がんの診療実態 (Pharmacoepidemiol Drug Soft)
3. 冠動脈ステント留置後のフォローアップ検査と心血管イベント (Heart Vessels)
4. 甲状腺がんの術中モニタリングと喉頭神経麻痺 (Laryngoscope)
5. 白内障手術後の遅発性眼内レンズ脱臼のリスク要因 (Jpn J Ophthalmol)

小児科および母子保健

1. 妊娠中または乳児期の受動喫煙と子どもの聴力障害 (Paediatr Perinat Epidemiol)
2. 妊娠中の抗うつ薬使用と子どもの自閉症スペクトラム障害 (Matern Health Noenatol Perinatol)
3. 免疫グロブリン療法後の川崎病患者におけるヘモグロビン値の変化 (Paediatr Drugs)

川上研設置2006年以降の研究業績（英文217編）および獲得研究費（15億3716万円）



教室の詳細は <http://square.umin.ac.jp/kupe/> をご覧ください。